LUCKY

2022.2

第52期　報告書

2021年3月1日から2022年2月28日

北雄ラッキー株式会社

東証スタンダード市場:2747

株主の皆様へ

ごあいさつ

北雄ラッキー株式会社
代表取締役社長 桐生（きりゅう） 宇優（ひろまさ）

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症により罹患された方々や感染拡大による影響を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、医療従事者の皆様をはじめとして、感染拡大防止にご尽力されている皆様には深く感謝申し上げます。

第52期（2021年3月1日～2022年2月28日）は、長期化するコロナ禍において度重なる感染拡大により行動制限が繰り返されることとなり、その収束も見通せない状況の一年となりました。今後はワクチンの複数回接種や治療薬の開発などにより、制限ではなくコロナとの共生という対応により、行動制限の緩和が進み、社会活動や経済活動の回復が期待されております。

当期におきましても、引続きお客様と従業員の安全・安心対策を最優先に、感染予防を徹底しておりますが、コロナ禍の長期化による外出自粛やリモートワークなどの新しい生活様式の定着化もあり、内食需要の継続とともに来店頻度の低下傾向がみられました。

また一方では、コロナ禍などの影響によるエネルギーコストや物流コストの上昇、またサプライチェーンの停滞などにより、物価の上昇が顕著となっており、ウクライナ危機勃発の影響でその物価上昇には拍車がかかるものと思われます。

小売業を取り巻く環境におきましても、厳しい外的要因や環境配慮型社会への変換による高コスト社会の到来、少子高齢化、労働人口の減少、異業種間競争の激化が加速するなど構造的な課題が山積しており、生産性の向上が企業の事業継続にとって必須条件となります。

当社におきましては、当期の重要課題として、センター機能の再構築による生産性向上及び商品強化を目的とする「ラッキー生鮮・デリカセンター」を新設しており、他社との差別化及び効率化による収益力向上を推進しております。

また、当面の課題である事業継続の為の顧客基盤形成には、30代・40代の次世代ファミリー層の顧客開拓が最重要であり、「もの消費」より「こと消費」に高い価値を置く世代に対し、SNS活用を含め、心の充実などの付加価値を買い物に見出すことのできる演出によりアプローチしてまいります。当社としては、付加価値商品の提供や顧客層を意識した情報発信により、次世代ファミリー層をしっかりと囲い込み、さらに他の世代層を巻き込んでの顧客開拓を図り、少子高齢化などの構造変化に対応できる強固な経営基盤づくりに努めてまいります。

これからも時代や社会の変化にいち早く対応し、お客様のニーズにも的確にお応えできる企業を目指し、役職者一同が最大限の努力をしてまいる所存でございますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

店舗網

（2022年2月末現在）

営業店舗合計	33店
食料品・衣料品共同店	22店
食料品単独店	5店
衣料品単独店	6店

■札幌市近郊店舗分布

●［食料品・衣料品共同店］
◆［食料品単独店］
■［衣料品単独店］

○本　部	〒006-0851 札幌市手稲区星置1条2丁1番1号	☎011-558-7000
■ラッキー生鮮・デリカセンター	北海道小樽市銭函3丁目193-1	☎0134-62-1717
■シティデリカセンター	北海道網走郡美幌町字青山北53-3	☎0152-75-2060
■生鮮センター	札幌市中央区北12条西19丁目36-168	☎011-623-0570
■低温センター	札幌市中央区北12条西19丁目36-168	☎011-643-4511
■物流センター	北海道石狩市新港西3丁目700	☎0133-75-8877

1971年4月、食品の小売および卸売を目的として株式会社オレンジチェーンを設立。1974年5月、商号を株式会社山の手ストアーと改めチェーン展開を開始し、更なる店舗規模の拡大と集客部門の充実強化を図るため、1982年5月に札幌市内を中心に衣料品のチェーン展開を行っていた株式会社まるせんと合併。商号も現在の北雄ラッキー株式会社に変更しました。

その後、一層のチェーン展開を図り、石狩市、小樽市、道東の美幌町・遠軽町、道央圏の千歳市・栗山町・長沼町と規模を拡大し、更に道東地区のドミナント化を図るため網走市、紋別市へ進出、2005年10月には道北の稚内市、2008年9月には後志地方の岩内町、2011年11月には道南地区の函館市へと営業エリアを広げ、2022年2月末現在、全道各地に33店舗を展開しております。今後も、企業理念である「北雄ラッキーは、日本一質の高いスーパーマーケットをめざします。」を掲げ、お客様に感動を与えるサービスとともにニーズの変化を敏感に捉え、一歩先を行くスーパーマーケットの創造に努力を続けてまいります。

「ナチュラルラッキー&テイスティラッキー」ラッキーらしさの商品コンセプト

お客様にとって最大の関心事である「食」の「健康と安心」の面において、当社が自信を持っておすすめしているのが「ナチュラルラッキー」の商品コンセプトです。お客様の健康増進や病気予防に役立つよう、有機野菜、特別栽培品、無添加商品などを展開しております。また、もうひとつの商品コンセプトである「テイスティラッキー」は、「おいしさ」と「品質」で、家族が揃うお祝いの日やお誕生日などの食卓で、家族みんなに満足していただける商品です。

健康で安心な毎日の食生活のために。
ナチュラルラッキー

パリクラ・バゲット

管理栄養士監修
500kcal未満弁当

興部ハム
ベーコン・ロースハム・
あらびきウインナー

おいしいものをどんどん食卓に。
テイスティラッキー

ラッキー味付
ロースジンギスカン・
ラムモモ

倶知安男爵いものポテトサラダ

中札内
そのまま枝豆

「お客様の食生活をゆたかに、安心にすることが私たちの願いです。」

当社の商品政策である「6MD商品」提供の目的は、お客様の食生活をゆたかに、安心にすることにあります。6MDの商品政策においては、商品が持っている様々な要素を6つの商品コンセプトを基に分類し、商品特性の見極めによる、顧客ニーズや価値観に適合する商品提供により、顧客満足度の向上を図っております。

私たちは、お客様が求めている商品やサービス、そして価値を提供することが、お客様の食生活をゆたかに、安心にすることに結びつくと信じております。

「新型コロナウイルス感染症への対応の継続」

店舗出入口に設置された自動センサー式アルコール消毒噴霧器。

新型コロナウイルス感染拡大の長期化により、当期も引続き感染防止への対応・対処が必要となりました。ワクチン接種の進展はあるものの、新たな変異株ウイルスの発生が続き、感染の収束時期は不透明のままであり、ウィズコロナとしての対処が求められております。当社では、引続きお客様や従業員の安全と安心を最優先課題として感染防止に取組み、マスク・手袋の着用、レジ待ち密集回避のソーシャルディスタンスの確保、消毒液噴霧器の設置及び飛沫防止パネルの設置などによる感染予防の徹底を継続しております。

お客様とお店の「安全・安心」が最優先です。

「新制服のご紹介」

新しい制服での品出しの作業風景です。

当社では、当期において10数年ぶりに制服の変更を行いました。新しい制服のイメージはブラウンを基調としてラッキーグリーンを細いラインで表現しております。全部門で共通のエプロンも、従来のラッキーグリーンからシックなブラウンに変更となりました。生鮮の白衣はスタンドカラーになっており、腕の部分はドルフィンカット仕様で腕の上げ下げなどの動きが楽になるように工夫が施されております。

新しい制服は、洗練されたデザインで機能性や清潔感も大幅にアップしており、私たちの装いも心もリフレッシュして自然と笑顔の接客になっております。

左側が生鮮担当の制服、右側は惣菜・ベーカリー担当の制服です。
デザインを一新、スタイリッシュな制服になりました。

「ラッキー生鮮・デリカセンター」の新設

当社では、小樽市銭函の「ラッキーデリカセンター」敷地内に「ラッキー生鮮・デリカセンター」を新設し、2021年11月8日から稼働を開始しております。同センターは、センター機能再構築による生産性向上及び商品力強化を目的として新設され、サラダ、煮物、和惣菜、カット野菜、鮮魚の加工品など新たな商品の製造を行うとともに、現状のおにぎり、お弁当、巻き寿司などの米飯類の製造を行い、当社のオリジナリティを更に強化する取組みや安全・安心でおいしい魅力ある商品の提供に努めております。同センターの稼働により、当社の食品を取り扱う全道27店舗に商品供給が可能となり、内製化による他社との差別化や効率化を進めております。

なお、2022年3月より、隣接する旧「ラッキーデリカセンター」棟を改装し精肉加工設備を移設しており、センター機能集約による更なる効率化を進めてまいります。

右手奥の旧デリカセンターに隣接して新設された「ラッキー生鮮・デリカセンター」。

1時間に1000枚のフィレ製造が可能な鮭スライスカッターです。

弁当やおにぎり、寿司用の米を炊く最新の炊飯室。

自動ドア付きのエアーシャワーで、塵埃や菌などを吹き飛ばします。

北雄ラッキーは「今も未来も地域のお客様と共にあり続けたい」という願いのもとに、地球温暖化防止（二酸化炭素の削減）をはじめとする環境問題に積極的に取組み、従業員一人ひとりが身近で出来ることから、着実に実践し積み重ねることで、地域のスーパーマーケットとして、地球や人にやさしい環境づくりに貢献してまいります。

「フロン排出抑制へ向けてがんばっています」

地球温暖化係数の低いフロンを使った冷凍・冷蔵設備（室外機）

バックヤードの冷凍冷蔵庫や店舗オープンケースなどを冷却している冷媒ガスはフロンと呼ばれるガスが入っており、漏えいするとオゾン層破壊や地球温暖化に悪影響を与えてしまいます。当社ではガス漏えい削減の為、クラウド上の情報処理センター「RAMS」を活用し全店で約300台ある冷凍冷蔵設備の管理台帳を作成しており、設備業者様による定期点検や店舗側による3ヶ月に一度の簡易点検及びガス漏えい記録管理などの情報共有により、フロン排出抑制に取組んでおります。新設の「ラッキー生鮮・デリカセンター」では、従来よりも地球温暖化係数（GWP）の低いフロンを使った冷凍冷蔵設備を採用し、環境に配慮した施設となっております。

「恵方巻の食品ロス削減に向けた販売活動」

節分の恵方巻は毎年恒例の国民的行事食となっておりますが、反面大量に生産販売されることで売れ残りなどの食品ロス問題が顕在化しております。当社では、農林水産省の食品ロス削減の呼びかけに応じ、2022年の恵方巻販売では予約販売に力を入れるとともに過去の販売データーを詳細に検討し、食品ロスの防止を前提に販売計画を策定いたしました。その結果、見事に廃棄ロスはゼロとなり、同時に販売目標も達成しております。

計画通りに運営された恵方巻売場です。

恵方巻ロス削減のロゴマーク「なくすのん」です。

当期の概況

●営業の状況

当事業年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の停滞が続いたものの、活動制限の緩和を背景として、経済・社会活動の正常化への動きがみられました。しかしながら、新たな変異株による感染再拡大に加えて、ウクライナ情勢緊迫化の地政学的リスクが重なり、先行き不透明な状況が続いております。

スーパーマーケット業界におきましては、長引くコロナ禍の影響に伴う内食需要等は継続したものの、少子高齢化による消費・生産人口の減少、可処分所得の低迷による個人消費の伸び悩み、低価格志向の高まり、ネットスーパーの急拡大など、厳しい状況が続いております。

当事業年度におきましては、感染症長期化の中で、顧客及び従業員の安全・安心確保を最優先とするコロナ禍への対処に加えて、社会構造の変化や生活様式の変化により多様化する顧客ニーズに的確に対応するため、以下の重点項目の取組みにより、事業の継続性・安定性・収益性・成長性の確保を目指してまいりました。

①ラッキー生鮮・デリカセンターの稼働に伴う収益力向上の基盤づくり、②競合他社との優位性を図るための商品力強化、③来店頻度向上を目的とする販売力の強化、④マーケティング力の強化によるストア・ロイヤリティの向上とファミリー顧客層の拡大、⑤ローコスト運営の徹底と業務効率の改善、⑥財務体質の強化。

最重点施策としての「ラッキー生鮮・デリカセンター」が新設され、センター機能再構築による生産性向上及び商品力強化を目的に、サラダ・生野菜商品をはじめ煮物・和惣菜・弁当・鮮魚加工品などの品揃え拡充を図り、付加価値商品の開発による差別化に取組んでまいりました。

営業面におきましては、ID−POSデータ活用による高併売率商品の拡充、ラッキーコジカカードと連動した（クーポン）販促提案、パック単価の適正化などに取組み、一人当たり買上点数増及び来店頻度向上による売上確保に努めてまいりました。

売上高につきましては、コロナ禍の長期化により、巣ごもり消費・内食需要が継続したものの、人流抑制に伴う来店客数の減少及び衣料品低迷が大きく影響し、前年の内食特需の反動に加えて、所得環境の低迷及び客単価の伸び悩みが重なり、前期を下回り減収となっております。

経費管理面におきましては、前年の反動による販売手数料の増加及び水道光熱費の増加があったものの、人件費の減少や消耗品の削減などにより、販売費及び一般管理費は前期比98.6%となり1億48百万円減少しております。

設備投資につきましては、2021年11月に「ラッキー生鮮・デリカセンター」を新設、新設店舗及び改装店舗は無く、2022年2月20日付で「ラッキー衣料館札内店」を閉店しております。

これらの結果、当事業年度の経営成績は、売上高389億65百万円（前期比2.0%減）、営業利益3億56百万円（同23.0%減）、経常利益3億91百万円（同18.1%減）、当期純利益2億44百万円（同26.9%増）となりました。

●次期の見通し

国内経済の見通しにつきましては、ワクチン接種等による新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の両立を進める動きが本格化し、経済活動の再開・正常化に伴う雇用・所得環境の改善や個人消費の本格回復が期待されます。しかし一方では、世界的な半導体不足や原材料価格の高騰に加えて、ロシアのウクライナ侵攻に対する経済制裁やエネルギー価格高騰の影響は避けることが難しく、予断を許さない状況が続くと思われます。

スーパーマーケット業界におきましては、ウィズコロナの新しい生活様式に対応し、新型コロナウイルス感染症防止の徹底に努める一方、EC事業者やドラッグストアなどの異業種を含めた競合の激化、値上げ等による消費者の節約志向・低価格志向の継続、物流コストやエネルギーコストの高騰などに対処が求められており、引続き厳しい経営環境が予想されます。

当社はこのような状況の中、依然として厳しい経営環境の認識のもと、地域顧客のライフラインとしての役割を担いつつ、持続的な事業運営に努めており、「商品力」、「販売力」及び「マーケティング力」の強化に最大限傾注することより、更なる成長を実現すべく経営基盤の強化に努めております。次期におきましても、コロナ禍におけるお客様及び従業員の安全安心の確保を最優先事項として取組み、ウィズコロナといわれる状況の中、多様化する顧客ニーズに的確に対応し、事業の継続性・安定性・収益性・成長性の確保を目指してまいります。

重点課題としては、以下の項目について対応してまいります。

①差別化戦略としての6MD商品の強化（6MD商品政策の推進）、②来店頻度向上を目的とする販売力向上、③マーケティング力強化によるファミリー顧客層の拡大、④ラッキー生鮮・デリカセンターの稼働に伴う商品供給の拡大と体制の確立、⑤ローコスト運営の徹底と業務効率の改善による生産性向上、⑥財務体質の強化。

次期の投資計画として、2022年3月に旧「ラッキーデリカセンター」棟を改装し精肉加工設備を移設しております。また、同年9月には「シティわっかない店」の改装を予定しております。

次期の業績予想につきましては、現時点で、新型コロナウイルス感染症の収束時期を予測することは困難であり、次期においても一定期間にわたって感染症の影響が継続すると想定されるため、景気回復の不透明な状況及び競合激化の環境を考慮し、売上高371億円、営業利益3億80百万円（同6.7%増）、経常利益4億円（同2.2%増）、当期純利益2億50百万円（同2.3%増）を見込んでおります。

なお、当社は、第53期の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しており、第53期の売上高は当該基準等に基づいた予想となっております。このため、当該基準等適用前の第52期の売上高に対する前期比は記載しておりません。

財務諸表

●貸借対照表

単位:千円

科目	前期 2021年2月28日現在	当期 2022年2月28日現在
〈資産の部〉		
流動資産	4,991,418	4,883,258
現金及び預金	2,057,253	1,821,934
売掛金	834,501	897,073
商品及び製品	1,464,357	1,555,262
原材料及び貯蔵品	60,118	59,328
前払費用	95,730	90,388
未収消費税	—	22,863
未収入金	466,017	422,829
その他	13,707	13,845
貸倒引当金	△267	△267
固定資産	13,178,015	13,770,284
有形固定資産	10,707,359	11,414,082
建物	3,415,094	3,960,571
構築物	106,465	157,208
機械及び装置	79	1,170
車輌運搬具	345	172
工具、器具及び備品	34,451	26,661
土地	6,943,376	6,943,376
リース資産	163,483	324,921
建設仮勘定	44,062	—
無形固定資産	104,901	83,881
ソフトウェア	86,672	65,652
電話加入権	18,228	18,228
投資その他の資産	2,365,755	2,272,320
投資有価証券	190,798	189,200
繰延税金資産	443,483	404,599
差入保証金	1,654,059	1,612,182
その他	77,413	66,337
繰延資産	1,147	422
社債発行費	1,147	422
資産合計	18,170,581	18,653,965

単位:千円

科目	前期 2021年2月28日現在	当期 2022年2月28日現在
〈負債の部〉		
流動負債	9,894,695	10,239,232
買掛金	2,867,084	2,373,100
短期借入金	3,850,000	4,950,000
1年以内返済予定の長期借入金	1,130,348	1,020,862
1年以内償還予定の社債	300,000	300,000
未払金	524,205	334,046
未払費用	288,286	298,930
未払法人税等	71,157	67,622
未払消費税等	29,821	—
前受金	19,126	19,217
預り金	549,532	619,612
賞与引当金	120,842	101,130
リース債務	112,830	123,339
ポイント引当金	31,461	31,371
固定負債	3,210,802	3,166,653
社債	300,000	—
長期借入金	1,466,558	1,663,758
退職給付引当金	875,334	852,847
長期未払金	—	25,338
長期預り保証金	277,203	270,125
リース債務	150,675	290,454
資産除去債務	63,255	64,128
その他	77,774	—
負債合計	13,105,497	13,405,885
〈純資産の部〉		
株主資本	5,044,891	5,226,144
資本金	641,808	641,808
資本剰余金	351,215	351,215
利益剰余金	4,053,807	4,235,060
自己株式	△1,939	△1,939
評価・換算差額等	20,192	21,936
その他有価証券評価差額金	20,192	21,936
純資産合計	5,065,084	5,248,080
負債・純資産合計	18,170,581	18,653,965

●損益計算書

単位:千円

科目	前期 2020年3月 1日～ 2021年2月28日	当期 2021年3月 1日～ 2022年2月28日
売上高	39,762,572	38,965,230
売上原価	29,502,155	28,941,967
売上総利益	10,260,416	10,023,263
営業収入	1,151,154	1,133,038
営業総利益	11,411,571	11,156,301
販売費及び一般管理費	10,949,052	10,800,168
営業利益	462,519	356,133
営業外収益	55,524	61,880
営業外費用	40,416	26,728
経常利益	477,627	391,284
特別損失	180,531	21,257
税引前当期純利益	297,095	370,027
法人税、住民税及び事業税	100,286	86,352
法人税等調整額	4,105	39,224
当期純利益	192,704	244,450

●剰余金処分

期末配当に関する事項

(1)配当財産の種類　金銭といたします。

(2)配当財産の割当に関する事項及びその総額

普通株式　1株につき金50円　　配当総額　63,197,600円

(3)剰余金の配当が効力を生じる日　2022年5月27日

(参考)

1. 当期における配当性向　25.9%

2. 1株当たり配当金の推移(期末時)

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
10.0円	50.0円	50.0円	50.0円	50.0円

※当社は 2018 年9月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。

●キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	当期 2021年3月1日～2022年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△147,821
投資活動によるキャッシュ・フロー	△792,896
財務活動によるキャッシュ・フロー	705,398
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△235,319
現金及び現金同等物の期首残高	827,253
現金及び現金同等物の期末残高	591,934

●株主資本等変動計算書

当期(自　2021年3月1日　至　2022年2月28日)

単位:千円

	株主資本									評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計			その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
					別途積立金	繰越利益剰余金						
2021年3月1日残高	641,808	161,000	190,215	351,215	2,465,000	1,588,807	4,053,807	△1,939	5,044,891	20,192	20,192	5,065,084
当期変動額												
剰余金の配当						△63,197	△63,197		△63,197			△63,197
当期純利益						244,450	244,450		244,450			244,450
自己株式の取得							—		—			—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							—		—	1,743	1,743	1,743
当期変動額合計	—	—	—	—	—	181,252	181,252	—	181,252	1,743	1,743	182,996
2022年2月28日残高	641,808	161,000	190,215	351,215	2,465,000	1,770,060	4,235,060	△1,939	5,226,144	21,936	21,936	5,248,080

売上・設備の状況

●商品別売上高の推移と直近構成比の状況

○売上高の概要

売上高につきましては、コロナ禍の長期化により外出自粛要請が繰り返されたこともあり、一定の巣ごもり消費・内食需要が継続したものの、人流抑制に伴う来店客数の減少及び衣料品低迷も大きく影響し、前年の内食特需の反動に加えて、所得環境の低迷及び生活防衛意識の強まりによる客単価の伸び悩みが重なり、前年同期を下回り減収となっております。

商品別売上高

単位：百万円

	第 50 期 2020/2	第 51 期 2021/2	前期比(%)	第 52 期 2022/2	前期比(%)	第 53 期(予想) 2023/2	前期比(%)
スーパーマーケット事業部門	39,935	39,762	99.6	38,965	98.0	37,100	95.2
生鮮食料品	16,661	16,915	101.5	16,692	98.7	16,235	97.3
一般食料品	17,921	17,825	99.5	17,575	98.6	16,889	96.1
衣料品	3,213	2,844	88.5	2,653	93.3	2,531	95.4
住居品	1,511	1,528	101.2	1,444	94.5	1,392	96.4
テナント売上	626	649	103.7	599	92.3	53	8.8
合　計	39,935	39,762	99.6	38,965	98.0	37,100	95.2

※2023 年 2 月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」等を適用するため、上記の予想数値は当該基準を適用した後の予想数値となっております。

第 52 期（2022/2）売上構成比

●設備投資等の概要

設備投資等につきましては、2021年11月、「ラッキーデリカセンター」の敷地内に「ラッキー生鮮・デリカセンター」棟を新設し、鮮魚部門・惣菜部門等のセンター機能を集約しております。なお、新設店舗及び改装店舗は無く、2022年2月20日付で「ラッキー衣料館札内店」を閉鎖いたしました。当期の設備投資の総額は1,139,777千円であります。2022年2月28日現在の店舗数は33店舗であります。

設備投資の推移

単位：百万円

	第 50 期 2020/2	第 51 期 2021/2	前期比（%）	第 52 期 2022/2	前期比（%）	第 53 期（予想） 2023/2	前期比（%）
投資金額合計	406	197	48.6	1,139	576.6	447	39.2
新店投資	246	—	—	—	—	—	—
既存店改装投資	59	64	108.1	270	418.5	411	151.7
その他	100	132	132.5	868	653.7	36	4.2
減価償却費	307	305	99.3	310	101.6	340	109.7
リース償却費	136	89	66.0	78	87.5	113	144.2

注　本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

●店舗の状況

(1) 開店・閉店店舗数と期末平均売場面積

	第 47 期 2017/2	第 48 期 2018/2	第 49 期 2019/2	第 50 期 2020/2	第 51 期 2021/2	第 52 期 2022/2
開店						
店舗数	1	2	0	0	0	0
平均売場面積(㎡)	457	1,117	0	0	0	0
閉店						
店舗数	4	1	0	0	0	1
平均売場面積(㎡)	3,826	493	0	0	0	996
全店						
店舗数	33	34	34	34	34	33
期末売場面積(㎡)	57,133	57,511	57,868	57,827	57,380	56,361
期中平均売場面積(㎡)	58,368	57,564	57,872	57,863	57,614	57,374

(2) タイプ別店舗数と期末売場面積

	第 47 期 2017/2	第 48 期 2018/2	第 49 期 2019/2	第 50 期 2020/2	第 51 期 2021/2	第 52 期 2022/2
衣料品単独店						
店舗数	8	7	7	7	7	6
期末売場面積(㎡)	5,404	4,911	4,911	4,911	4,692	3,696
食料品単独店						
店舗数	4	6	5	5	5	5
期末売場面積(㎡)	4,507	5,624	4,029	3,987	3,987	3,987
食品・衣料共同店						
店舗数	21	21	22	22	22	22
期末売場面積(㎡)	47,222	46,976	48,928	48,929	48,701	48,678

会社概要

（2022年5月26日現在）

設立	1982（昭和57）年5月10日
本社	〒006-0851 札幌市手稲区星置1条2丁目1番1号
資本金	6億4180万円
代表者	代表取締役社長　桐生　宇優
従業員数	正社員　465名 パートナー　1,267名 （1人8時間換算　月平均） 2022年2月末日現在
営業品目	生鮮食料品・加工食品・菓子・衣料品・ 日用雑貨・米・酒

役員	代表取締役社長	桐生　宇優
	取締役　常務執行役員	田中　寛密　（営業本部長）
	取締役　執行役員	髙橋　徹　（管理本部長）
	取締役	吉田　周史　（社外取締役）
	常勤監査役	黒崎　昭仁
	監査役	宮脇　憲二　（社外監査役）
	監査役	伊藤　光男　（社外監査役）
	執行役員	斎藤　礼二　（営業本部　業務推進室長）
	執行役員	新榮　登　（営業本部　商品統括部長）
	執行役員	吉田　武生　（営業本部　販売統括部長）

沿革

1971年　4月	食品の小売及び卸売を目的として、札幌市手稲西野（現 西区西野）に資本金6,000千円にて株式会社オレンジチェーンを設立。
1973年　4月	本社を札幌市西区山の手1条7丁目に移転。
1974年　5月	商号を株式会社山の手ストアーに変更し、本格的にスーパーマーケットのチェーン展開を開始。 同月、山の手店（現 ラッキー山の手店）をはじめ、5店舗の営業を開始。
1975年 10月	札幌市東区に北49条店（現 ラッキー北49条店）を開店。以後、1982年5月までに札幌市内5店舗を開店。
1976年 10月	札幌市豊平区（現 清田区）に清田店（現 ラッキー清田店）を開店。
1982年　5月	株式会社まるせんと合併すると同時に北雄ラッキー株式会社に商号変更。 同時に本社を札幌市中央区大通西23丁目291－1に移転。
1984年　6月	本社を札幌市中央区宮の森3条1丁目1－25に移転。
1988年　7月	小樽市新光町にラッキー朝里店を開店。小樽市へ進出。
1989年　7月	本社を札幌市中央区北11条西19丁目36－35に移転。
1990年　3月	ＰＯＳ（販売時点情報管理）システムを導入。
1991年 10月	石狩町（現 石狩市）花川にラッキー花川南店を開店。
1993年　9月	株式会社シティびほろと合併し、シティびほろ店を開店。道東地区へ進出。
1994年　3月	千歳市錦町にラッキー千歳錦町店を開店。千歳市へ進出。
1994年　4月	紋別郡遠軽町にシティえんがる店を開店。道東地区2店舗となる。
1996年　3月	本格的にインストアベーカリーを手がけ、以後各店へ導入。
1998年　3月	夕張郡栗山町にラッキー栗山店を開店。
2000年　3月	網走市駒場にシティあばしり店を開店。道東地区3店舗となる。 同月、食品の安全性検査のため独自の商品検査室（現 安全衛生室）を設置。
2001年　3月	札幌市北区にラッキー新琴似四番通店を開店。
2002年　4月	札幌市手稲区にラッキー星置駅前店を開店。
2002年 10月	日本証券業協会に株式を店頭登録。 （現在は東京証券取引所　スタンダード市場に上場）
2003年　4月	夕張郡長沼町にラッキー長沼店を開店。
2003年　9月	札幌市西区にラッキー発寒店を開店。
2004年　5月	精肉・鮮魚商品を店舗へ供給する生鮮センターを稼働。
2004年　6月	紋別市渚滑にシティもんべつ店を開店。道東地区4店舗となる。
2005年 10月	稚内市新光町にシティわっかない店を開店。道北地区へ進出。
2006年　3月	青果物・水産物を店舗へ配送する低温センターを稼働。
2007年　7月	小樽市手宮にラッキー衣料館手宮店を開店。
2008年　9月	岩内郡岩内町にラッキー岩内店を開店。
2011年 11月	函館市人見町にラッキー衣料館ひとみ店を開店。
2012年　9月	函館市美原にラッキー衣料館美原店を開店。
2013年　6月	本社を札幌市手稲区星置1条2丁目1番1号に移転。
2014年　3月	虻田郡倶知安町にラッキー倶知安店を開店。
2015年　7月	常呂郡訓子府町にシティマートくんねっぷ店を開店。
2015年　7月	岩見沢市幌向にラッキーマート幌向店を開店。
2016年　4月	網走郡大空町にシティマートめまんべつ店を開店。
2017年 10月	紋別郡湧別町にシティマートなかゆうべつ店を開店。
2021年 11月	小樽市銭函のデリカセンター敷地内にラッキー生鮮・デリカセンター棟を新設。鮮魚部門・惣菜部門等のセンター機能を集約。
2022年　3月	旧ラッキーデリカセンター棟跡に移設した精肉加工棟の稼働開始。

株式の状況（2022年2月28日現在）東証JASDAQ(スタンダード):2747

（注）2022年4月4日より、東京証券取引所の新市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場（証券コード:2747）に上場しております。

発行済株式の総数	1,264,640株
期末株主総数	1,366名（前期比 81 名増）

●所有者別株主数

※個人・その他には、自己株式1名分が含まれております。

●当社株価・売買高の推移（2021.3～2022.2）

●大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
桐生興産株式会社	290,300	22.96
横山　清	70,000	5.53
株式会社北洋銀行	62,000	4.90
田中　寛密	60,000	4.74
堀　勝彦	48,000	3.79
有限会社まるせん商事	32,000	2.53
株式会社北海道銀行	30,000	2.37
千葉　サカヱ	27,600	2.18
ノースパシフィック株式会社	27,000	2.13
株式会社桐生商店	22,400	1.77

（注）出資比率は自己株式（688株）を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月下旬
基準日	2月末日 そのほか臨時に必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。
配当金受領株主確定日	2月末日 中間配当を行う場合は8月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	当社ホームページ(https://www.hokuyu-lucky.co.jp) において、電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告を することができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
株主優待制度	株主優待制度として、毎年2月末日現在の100株以上ご保有の株主の皆様に対し、保有株式数に応じて以下のとおり株主優待贈呈品を年1回お届けいたします。

保有株式数	基準日	優待内容
100株以上200株未満	毎年2月末日	年1回、1,000円相当のJCBギフトカードを贈呈。
200株以上1,000株未満	毎年2月末日	年1回、5,000円相当のJCBギフトカードもしくは「北海道特産品」を贈呈。
1,000株以上	毎年2月末日	年1回、10,000円相当のJCBギフトカードもしくは「北海道特産品」を贈呈。

LUCKY

2022.2
第52期 報告書

	証券会社等で株式を保有されている場合	証券会社等で株式を保有されていない場合（特別口座の場合）
住所変更、株式配当金受取り方法の変更などのお問い合わせ	お取引の証券会社等になります。	当社の特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行へお問い合わせ願います。 みずほ信託銀行　証券代行部 ホームページ： https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html フリーダイヤル 0120-288-324 （土・日・祝日を除く 9:00～17:00）
未払配当金、その他当社株式関係書類についてのお問い合わせ	右記みずほ信託銀行までお問い合わせ願います。	
ご　注　意		特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。株式の売買にあたっては、証券会社等に口座を開設し、株式の口座振替手続を行っていただく必要があります。

本報告書で記述されている当社の現在の計画、戦略、業績予想並びに将来予測などは、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、経済情勢・市況環境等の様々な要因の変化により、実際の事業内容や業績は、これらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。従いまして、当社の業績や企業価値等をご検討される際に、これら見通しのみに全面的に依拠することは避けていただきますようお願い致します。

また、本報告書に記述するいかなる情報も、当社の株式等の購入や売却を勧誘したり、これらに対する投資をアドバイスする目的で作成されたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い致します。